

2016年9月～2017年8月のJ-stageアクセスランキング上位20位の論文情報

(対象論文：44巻1号～52巻2号に掲載された総説、原著、速報、技術調査報告、ノート、資料が対象)

順位	アクセス数	論文種別	タイトル	主著者	巻	頁
1	484	原著論文	Fresh sootと、aged sootは、どちらが気道に沈着しやすいか	梶野 瑞王	49	101
2	223	技術調査報告	PM2.5の酸分解/誘導結合プラズマ質量分析法によるケイ素を含む30元素一斉分析	辻本 浩子	50	192
3	166	総説	PM2.5の実態解明に向けて	伏見 暁洋	46	84
4	153	原著論文	九州北部における春季の高濃度PM2.5と長距離輸送	兼保 直樹	45	227
5	150	総説	気象/大気質モデルの開発とその応用に関する研究	近藤 明	51	77
6	144	総説	大気汚染の健康影響に関する疫学研究—自動車排出ガスと微小粒子状物質(PM2.5)を中心に—	島 正之	50	67
7	126	技術調査報告	2013年11月4日に東日本として初めて注意喚起が実施された千葉県のPM2.5高濃度エピソードの要因推定	市川 有二郎	50	152
8	125	総説	地域スケールの化学輸送モデリング	森野 悠	50	131
9	124	原著論文	トレーサー法を用いたわが国の硫酸塩濃度に対する国内外の発生源寄与評価	板橋 秀一	50	138
9	124	原著論文	大気エアロゾル中のイオン成分および無機元素成分の粒径別高時間分解能観測による黄砂と人為起源物質の越境輸送の詳細解析	辻 昭博	48	82
11	119	技術調査報告	福島県浪江町の里山に大気沈着した放射性セシウムの森林内分布と挙動	黒島 碩人	49	93
12	111	原著論文	3次元大気シミュレーションによる2005年度日本三大都市圏PM2.5濃度に対する国内発生源・越境輸送の感度解析	茶谷 聡	46	101
13	110	原著論文	九州北部の離島および大都市部におけるPM2.5濃度の通年での挙動	兼保 直樹	46	111
14	109	技術調査報告	大気汚染物質排出インベントリーEAGrid2000-Japanの年次更新	福井 哲央	49	117
15	106	原著論文	単純地形上の冷却塔排気拡散に関する風洞実験—排気上昇と模型表面粗度の影響—	瀧本 浩史	50	226
16	103	技術調査報告	関東地方の夏季高濃度Oxの長期的濃度変動要因の検討と前駆物質濃度削減効果の予測評価	上野 広行	50	257
16	103	速報	2013年1月に中国北京市で採取した高濃度PM2.5、PM1の特徴	米持 真一	48	140
18	100	ノート	生物起源VOCを添加した東京の都市大気への光照射によるオゾンとホルムアルデヒドの生成	松永 壮	50	233
18	100	原著論文	東京郊外の森林におけるPM2.5鉛直プロファイル観測による硫酸塩および硝酸塩の沈着メカニズムの差違	山崎 龍哉	50	167
21	96	総説	植物に対するオゾン、酸性降下物およびエアロゾルの影響に関する研究	伊豆田 猛	51	85
21	96	原著	誘導体化-加熱脱着 GC/MS 法によるPM2.5中の極性及び非極性有機成分の簡易迅速分析	上野 広行	47	241

(同一IPアドレスからの複数アクセスは1回とカウントしています。巡回ロボットによるアクセスは除外しています。)